

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと、美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生きましよう。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましよう。奈良は善意のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあいましよう。

奈良は清潔で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましよう。

奈良はのびのびと、市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまらづくりをしましよう。

奈良市民だより

No. 430

市民のうごき

12月1日現在(前月比増)
 人口 289,372人(400)
 男 140,491 (148)
 女 148,881 (252)

世帯数 91,663 (61)

平城京復元模型を前に両陛下に説明申し上げる鍵田市長(県庁ロビーで)



古都奈良でおくづるごぎ

市長がご説明

京平城復元模型
 市民の盛んな奉迎をおよるこび

天皇皇后両陛下

天皇・皇后両陛下が県内ご旅行のため、十二月三日来県され、同五日までの三日間奈良市にご滞在になりました。

両陛下がおそろいで大和路へおいでになったのは、昭和三年十一月に即位を祝う山陵に御奉告にこられて以来五十一ぶり。戦後では天皇陛下は昭和二十六年十一月に地方状況視察のため、また皇后陛下は昭和二十九年十一月にご来県になって以来のことです。ご訪問さきや両陛下のお車を通る沿道では、手に手に日の丸の小旗をもった県民多数があたたかくお迎えしました。

三日午後二時二十一分、両陛下は京都から特別列車で近鉄奈良駅にお着きになり、大勢の市民が日の丸の小旗を振ってお迎えするなかを県庁にお入りになりました。

県庁では、上田繁潔副知事、西口栄三県議会議長、鍵田忠三郎市長、岡田清三郎市議会議長の前に拝謁を賜わり、鍵田市長には「日ごろ市

政のために努力してくれてありがとう。地方自治のため、福祉向上のために、なお一層努力して下さい」とのお言葉がありました。このあと、玄閣ロビーに奈良市役所から移設された平城京復元模型をご覧になりました。

この平城京復元模型は、日ごろ奈良市役所で展示しているのを両陛下にご覧いただく

ため、特別に県庁へ運び込んだもので、この平城京復元模型を二十余年にわたる念願から企画・製作した鍵田市長がご説明いたしました。

鍵田市長が「ここが平城宮でございます」「こちらが世界一の木造建築の東大寺大仏殿で、そのうしろ北側に正倉院がございます」と、ていねいに説明申し上げると、両陛下は一つ一つうなずかれ、大変興味深くご覧になった様子で、鍵田市長に「京都の御所より平城宮の方が大きいように思えるが、どのくらいあるの」「現在平城宮跡の復元はどのまで進んでいるの」「天の香山はどの方向ですか」と盛んにご質問になり、深い関心を示されました。

この日天皇陛下は、奈良市民のあたたかい歓迎ぶりをお喜びになり、侍従を通じて「奈良の市内に入り、大勢の市民から熱心な歓迎をうけて非常にうれしかった」と述べられ、また平城京復元模型については「市長から、平城京の歴史について詳しく説明をうけ、昔の歴史を改めて思い出した」とのお言葉がありました。

天皇・皇后両陛下がおそろいで大和路へおいでになったのは大正十三年二月御成婚ご奉告のときと、昭和三年十一月御即位ご奉告のときの二回で、このほか天皇陛下は五回、皇后陛下は二回単独でおいでになっており、今回のご来訪はひととおおなつかしげに見受けられました。

翌四日は天皇陛下だけが飛鳥地方を訪れられ、甘樫丘(あまかしのおか)や高松塚をご見学になったあと、午後には両陛下おそろいで春日大社にご参拝され、「リンゴの庭」での「和舞」(やまとまい)をご覧になりました。

五日は法隆寺と中宮寺をおたずねになり、奈良ご旅行の全日程を終えられて、午前十一時五十七分近鉄奈良駅発の特別列車で京都を経て帰京になりました。

近鉄奈良駅周辺は両陛下をお見送りする約三千人の市民でうずまきました。両陛下はお名残り惜しげに何度も何度も手を振ってこたえておられました。



【右】日の丸を手に両陛下を奉迎するご老人
【左】奉迎の人々の前を行く両陛下のお車

